

学力保障につながる授業改善をめざして

－ 教員の授業力向上のための e-Learning －

中嶋 弘行

今年度の「指導の重点」では「個に応じた指導」が求められている。個に応じるための方法の一つとして私たちは日常的に机間指導を行うが、そこではどのようなことが行われれば子どもは学習を深めていくことができるのか、また必要な要素は何なのだろうか。ビデオ取材した机間指導の場面について指導者に話をきいてみると、ひとつの助言や指導・支援の場面に、絶えず「子ども理解」「教材理解」の2つの側面が存在していることが明らかになってきた。

本研究では、これら2つの側面から指導者の視点や意図を整理して編集したビデオ資料を制作した。実際に若い先生たちに視聴していただく中で、短時間でも研修の効果を高める上で編集が重要であることもわかってきた。この点をふまえて、いつでもどこでも効果の高い研修に利用できる e-Learning コンテンツの在り方を提示する。

第1章 e-Learning の可能性

京都市総合教育センターで行われている「フレッシュせんせい授業交流会」では、授業づくりのための切実なおもいが交換されている。私たちは授業改善のためのポイントについて学校で先輩から教わったり研究授業で学んだりしてきた。日常の授業を改善するためにいますぐ資料が欲しいと思っても、授業に間に合わないこともあった。そういう中で e-Learning という概念が登場し、「いつでもどこでも」時間と空間に制約されることなく自分のテーマにあった学習が行えるようなくみが整いつつある。身近になってきている。この方法によれば、居ながらにしてビデオ資料を視聴したり印刷できる資料を手に入れたりすることができる。こうした形態で行う、効果の高い研修のためのコンテンツにはどのような工夫がなされていけばよいのかを昨年度は考えて、視聴できるビデオ資料に加えて研修用のワークシートや児童用の資料を加えたビデオセットとして仕上げてきた。

では、ビデオ資料にどのような工夫がなされれば研修は深まるのか。昨年度の研究から、

- ・研修が短時間でできること
- ・研修の視点が明らかであること

という2点に沿って編集されていることがポイントとして明らかになった。さらに e-learning のためのコンテンツ制作のポイントとしては

- ・研修のための視点を絞ること
- ・資料の電子化

が挙げられた。ここで、研修のための視点を絞ったコンテンツが効果の高い研修につながるとすれ

ば、その効果を調べてみたい。そこで、

- (a) 撮りっぱなしの無編集に近いビデオ資料
- (b) (a)を視点に沿って加工されたビデオ資料

という2種類のを制作し、この2者の視聴から得られた成果を比較してみてもうどうだろうと考えた。

この研究の中で扱うテーマやポイントから

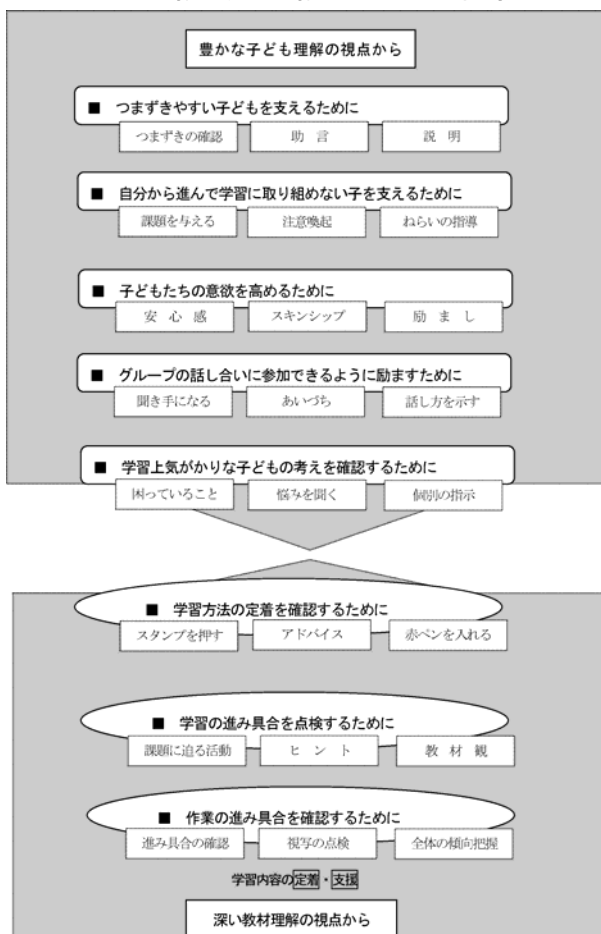
1 机間指導 2 子ども理解・教材理解 3 編集の観点の3つをキーワードとして設定した。これらの点を切り口として、ビデオ素材への加工が研修にもたらす効果を調べていく。

第2章 研究の流れ

机間指導は教壇に立てば誰もが行う、ごくありふれた営みである。この場面は外から見ても目の前で行われていてもわかりにくい一方で、誰もが日常的に行うものであるところから考えれば授業を構成する大きな要素であることが想像できる。そこで、ビデオ資料を使ってこの個別の指導の在り方について、研修を深めることができることを明らかにしたいと思った。

学校では子どもに学んで欲しいことがら(教育内容)があり、活動をさせることでそれを実現する。ならば、子どもが活動に向かううちに教育内容を学ぶことができるようなものが用意されるべきである。学習は子どもの学習歴や生活歴といったさまざまな背景を把握する**子ども理解**と、教材の側から子どもをみて自力でできるかそれともつまづくかといったことを予測するような**教材理解**という2つの側面を背景にして組み立てられていく。これら2つの側面が指導者の「おもい」とし

図1 子ども理解・教材理解からみた机間指導



て指導の背景になり、子どもの学習を深めていく。

これらの側面は直接授業では言葉になってあらわれたりすることがないことから、ビデオを使った研修資料では、なんらかの形で視聴者に提示できるための加工を行えばよいのではないかと考えた。これが編集の観点となった。そして、研修の視点に沿った加工がなされているビデオを視聴したときに若い先生たちはどのような「気づき」をもたれるのかを検討しようと考えた。

実際に制作する資料パッケージの在り方も考える中で、研修の視点に沿ってくりかえし視聴したり自由に取り出したりできるようにする工夫を考え、また印刷して使える資料も同梱してまとめ仕上げることにした。

第3章 ビデオ資料制作の実際

研究協力員の先生には、机間指導の場面が多く撮れる授業の提供をお願いした。また、授業後に、撮影した机間指導の場面について「なぜその子のところに行くのか、なぜその指導をするのか」という点について語っていただき、直接授業中には語られない指導の背景について収録した。ビデオ記録から切り出した机間指導の場面にこの編集の

観点から解説を加えて編集したものを用意し、若い先生たちに視聴していただく準備をする。

制作の途中に、指導者二人に共通する理念に気がついた。それは「ただ教室にいるだけの子どもがいてはならない。ひとりひとりが学習に参加して自分を伸ばす、そのことがよいクラスをつくる」ということである。その理念をもとに、的確に子どもを理解してどんな働きかけをすればどの子が伸びるか、また教材の側からみて子どもに合っているかをみとろうとしている姿が浮かんできた。

ところで、子どもは机間指導をどう捉えているのだろうか。7月と11月の2回にわたって六条院小学校の子どもたちに質問紙を配って気持ちをたずねてみたところ、先生の机間指導を「頼りきってはいないけれど期待している」ような姿が浮かび上がった。指導者からは「あまり頼らずにやろうとしているけれど、回っていることが役に立っているなあ」という感想もいただくことができた。

学習意欲にかかわって行われている平成14年度の調査からは、中学2年生でさえ望む学習支援形態の上位に机間指導を挙げていることがわかっている。しかも、学習への「やる気」があまりないと考えている子どものグループに、むしろ机間指導への望みは大きい。子どもにそういった気持ちのあることは子ども理解として大切であろう。

第4章 研修を深めるもの

編集の観点に沿って加工し制作したビデオ資料は、果たして研修の効果を高めるものであるのだろうか。これを確かめるために、「フレッシュせんせい授業交流会」に参加された先生たちの協力を得て、2種類のビデオ記録

- ① 指導場面のみ の提示 (約10分)
- ② 指導の背景を組み込んだもの (約7分)

を比較視聴していただく機会を得た。

ビデオ記録①の視聴後には驚くほど実にたくさんの気づきが記されていたが、気づきの範囲がやや広がっている。これに対し、ビデオ記録②の視聴後に記されたメモからは、指導者の子ども理解と教材理解が机間指導にどのように反映しているかという点について集中的に記述されていた。つまり、研修の視点に沿って編集されたビデオ記録は短時間でも効果の高い研修を生むことができるといえる。

研修の視点に沿って編集された授業のビデオ記録に加え、子どもたちに配付できる資料までがいつでもどこでも取り出せるようになれば、日々の授業改善のために大きな力になることだろう。